

今回は、「かえる」にまつわるエピソードのお話を紹介します。

私の中で印象的なエピソードといえば、ノーベル賞受賞者に授与される「カエル勲章」の話と、花札に出てくる柳に飛びつこうとしているカエルの話であります。カエル勲章とは、ノーベル賞受賞者が記念講演のあとに行なわれるパーティーで、カエルを真似た学生から授与される勲章で、そのあとみんなでカエル跳びをするのが恒例だそうです。

ずいぶん前に日本人が受賞したときにニュース番組で観たのですが、「なんでカエルなんだろう？」ととても不思議に思ったのを覚えています。なぜカエルなのかというと、「ノーベル賞を受賞することは大変素晴らしいことだが、現状に満足せず更なる飛躍をしてほしい」と願って「カエル跳び」をするというのが理由の一つで、あと別の理由で、スウェーデンではカエルとは「失敗の象徴」で、幾たびの失敗にもめげずに偉業を成し遂げた受賞者にこそカエルがふさわしいという意味もあるとのこと。偉大な業績を達成した受賞者が、カエルのようにピョンと跳びはねるのは、なんともユーモラスで親近感が湧きますね。

それに近いエピソードで、日本の花札に描かれている「柳に飛びつこうとしているカエル」の話があります。これは平安時代の書家である小野道風が、なかなか筆が進まずスランプ状態に陥っていたとき、柳に飛びつこうとして何度も失敗しているカエルを見て、

「そんな高いところに届くわけがないのに、なんで何度失敗してもあきらめないのだろう。カエルはバカだなあ・・・」

と思っていたのが、ある時に強い風が吹き、柳がしなって、偶然その柳にカエルが飛びつくことができたのを目にして、

「努力を続ければ、偶然を味方につけることができる。バカなのはカエルじゃなくて、努力をしない自分の方だ。」

と目が覚めて、スランプを脱することができたとのこと。

「学に志し、芸に志す者の訓」として語り継がれております。

ノーベル賞の「カエル勲章」にしても、花札の小野道風の逸話にしても、カエルが「失敗しても諦めない、努力の象徴」になっているのが面白いなあと思いました。

Q 1 : スウェーデンでは、カエルは何の象徴ですか？

A 1 : ()

Q 2 : カエルの様に失敗が続く場合、あなたならどうしますか？

A 2 : ()